

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。		多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。		自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。	
学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂 『精選 論理国語』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	「情報社会」を生きるⅡ	「情報ネットワーク社会」 「疑似群衆の時代」	6	思考力と対比して論理力とは何かを考える。	
5	言葉を見つめるⅡ	「夢は何語で見る？」 「『対話』の言葉をつくる」	6	論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。 情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。	
6	共生社会を想像する	「母親のための酸素マスク」 講演 持続可能な福祉社会への道	8	都市生活における事故と他者の関係について考える。 情報の階層化が進む中で「言論の自由」の意味について考える。	
7	経済について考える	「『私』消え、止まらぬ連鎖」 「落語の中の経済学」	8	「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。	
8	国際社会を考える	「スポーツとナショナリズム」	3	情報社会を生きる上で大切なことは何か考え、発表する。	
9	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	29	共通テストで得点率70%以上を取ることを目指す。	
10					
11					
12					
1	2次・個別試験対策	自主教材を用いて2次個別試験対策を行う。	12	志望校合格を目指す。	
2					
3					

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。		多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。		自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。	
学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『新 論理国語』、尚文出版『常用漢字クリア』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	具体と抽象の関係を理解するために	「人類による環境への影響」	6	具体と抽象の関係を理解する。	
5		「この十年をどう生きるか」	6	さまざまな物のい方を理解する。	
6		「プラスチックごみについて考える」 「説得力のある文章を書く」	8	情報を相対化し、自分の考えを形成する。 考えを相対化する。	
7	批評するために	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的態度」	8	取り上げられた事例の長さ、順序について批評する。 例証の具体を読む。	
8		「日本漫画のブルーオーシャン戦略」	3	読者を想定した事例の効果を検証する。	
9		「報告文を書く」 「ミロのヴィーナス」	7	報告文を書く。 抽象概念を言語化した文章を読解し、その内容を自分なりの言葉に置き換えて説明する。	
10	情報を関連付け自分の解釈を形成するために	「学びとは何か」 「『知る』ということ」	8	事例同士を関連付けて筆者の主張を読む。 言葉の意味を捉え直し、自分の考えを深める。	
11		「文系と理系の壁はあるか」 「自己推薦文を書く」	8	自らの体験を事例として説明することの意味を分析する。 分析して修正する。	
12	解釈を広げたり深めたりするために	「科学には限界があるか」	6	納得できる論証を構築する。	
1		「未来のありか」	6	論の形成の仕方について考える。	
2		「リスク社会論」	4	文章の構成や展開、表現の仕方について吟味する。	
3		「卒業論文を書く」	2	表現力を駆使する。	

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。		多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。		自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。	
学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『新 論理国語』、尚文出版『常用漢字クリア』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	具体と抽象の関係を理解するために	「人類による環境への影響」	6	具体と抽象の関係を理解する。	
5		「この十年をどう生きるか」	6	さまざまな物のい方を理解する。	
6		「プラスチックごみについて考える」 「説得力のある文章を書く」	8	情報を相対化し、自分の考えを形成する。 考えを相対化する。	
7	批評するために	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的態度」	8	取り上げられた事例の長さ、順序について批評する。 例証の具体を読む。	
8		「日本漫画のブルーオーシャン戦略」	3	読者を想定した事例の効果を検証する。	
9		「報告文を書く」 「ミロのヴィーナス」	7	報告文を書く。 抽象概念を言語化した文章を読解し、その内容を自分なりの言葉に置き換えて説明する。	
10	情報を関連付け自分の解釈を形成するために	「学びとは何か」 「『知る』ということ」	8	事例同士を関連付けて筆者の主張を読む。 言葉の意味を捉え直し、自分の考えを深める。	
11		「文系と理系の壁はあるか」 「自己推薦文を書く」	8	自らの体験を事例として説明することの意味を分析する。 分析して修正する。	
12	解釈を広げたり深めたりするために	「科学には限界があるか」	6	納得できる論証を構築する。	
1		「未来のありか」	6	論の形成の仕方について考える。	
2		「リスク社会論」	4	文章の構成や展開、表現の仕方について吟味する。	
3		「卒業論文を書く」	2	表現力を駆使する。	

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	3年特別進学コース αβ文系	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。		文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。		作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。	
学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂 精選 文学国語				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第二部 小説(一)	「鞆」	6	小説の形式や表現の特色に注意して、登場人物の言動や心情を理解し、「鞆」の持つ象徴的意味について考える	
5	詩歌	「永訣の朝」 「渡り鳥」俳句十五句	6	表現形式や修辞の効果に着目し、理解を深める 俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する	
6	小説(二)	「靴の話」	8	「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解し、戦争の記憶を語り継ぐことの意義を考える	
7	小説(二)	「夏の花」	8	「私」が目撃した事実の諸相を時系列にしたがって整理し、物語の展開・構造・「私」の心情を理解する	
8	翻訳の言葉	「雪国の謎」一夜の底とは何か	2	欧米圏の言語の持つ特徴と比較することで日本語の文章上の特徴を理解する	
9	翻訳の言葉	「雪国の謎」一夜の底とは何か	8	日本語の原作と英語訳の表現の違いが、言語の性質によるものではなく「主観的」と「客観的」、「具象」と「抽象」という様式の違いによることを理解する	
10	翻訳の言葉	「涙の贈り物」	8	翻訳小説の魅力を味わう。表現の特色に注意して、登場人物の言動や心情を理解し作品が自分たちに投げかけている問題について考える	
11	小説(三)	「檸檬」	8	前半に描かれる、青年期特有の憂鬱な心情を、「私」の生活の様子とともに追究する	
12	小説(三)	「檸檬」	6	後半に描かれる、「私」が「檸檬」を手に入れることで始まる憂鬱からの解放を理解する	
1	評論	「陰翳礼賛」	6	漆器や料理を具体例とした、日本の文化に関する筆者の考えを理解する	
2	受験対策	特別授業	5	志望校合格を目指して受験対策をする	
3	受験対策	特別授業	1	志望校合格を目指して受験対策をする	

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。		文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。		作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。	
学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『新 文学国語』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	文学の想像力を捉える	「月火水木金土日」	6	現実と非現実の境界を意識して読む。	
5		「源氏物語」	6	古典文学の魅力と向き合い、理解する。	
6	言語文化の可能性を追求する	「鞠」 「竹取物語」	8	読みをほかの方法で表現する。 作品とメディアについて考える。	
7	時代を超えて生きる 古典文学を温める	「雨月物語」 「方丈記」	8	人間に対する考え方を深める。 自然に対する見方を深める。	
8		「古譚」	3	社会に対する見方を深める。	
9		「『虫めづる姫君』の 観察眼」	7	文学から世界への見方を深める。	
10	空間を越えて生きる翻訳文 学の価値を見つける	「星の王子さま」 「藤野先生」	8	人間についての考え方を深める。 社会とのつながりについて考えを深める。	
11		「ナガサキの郵便配達」 「意見・主張型小論文を書 く」	8	人類に共有される課題について考えを深める。 自分の考えに対する根拠を検討し、小論文にまとめる。	
12	自分と未来をつなぐ文 学の魅力を探る	「山椒魚」 「珊瑚のリング」	6	人間のもつ本性について考える。 人間の存在について考える。	
1		「旅する本」	5	人生の未来図について考える。	
2		「文学の未来」	4	言葉を通してつながることについて考える。	
3		「企画・提案型小論文 を書く」	3	自分の企画・提案内容を検討し、小論文にまとめる。	

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	3
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。		上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	大修館書店 『精選 古典探究』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	説話	源義家、衣川にて阿倍貞任と連歌のこと	9	古人の豊かな情操にふれ、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。	
5	故事・説話	水魚の交はり	9	当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養う。	
6	物語	虫めづる姫君	12	古人の豊かな情操にふれる。	
7	史伝	刎頸の交はり	12	歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	
8	日記	和泉式部と清少納言	6	古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化を養う	
9	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	36	共通テストで得点率70%以上を取ることを目指す。	
10					
11					
12					
1	個別試験対策	自主教材を用いて個別試験対策を行う。	24	志望校合格を目指す。	
2					
3					

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。		先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。		上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	大修館書店 『精選 古典探究』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	説話	源義家、衣川にて阿倍貞任と連歌のこと	6	古人の豊かな情操にふれ、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。	
5	故事・説話	水魚の交はり	6	当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養う。	
6	物語	虫めづる姫君	8	古人の豊かな情操にふれる。	
7	史伝	刎頸の交はり	8	歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	
8	日記	和泉式部と清少納言	3	古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化を養う	
9	思想	暴虎馮河	7	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	
10	物語	葵上と物の怪 須磨の秋	8	我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。	
11	長恨歌と日本の文学	概説 長恨歌	8	他国の文化を尊重するとともに、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起して理解を深める。	
12	物語	浅茅が宿	6	古典作品を多角的にとらえ、古代より現代まで続く言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。	
1	個別試験対策	自主教材を用いて個別試験対策を行う。	12	志望校合格を目指す。	
2					
3					

教科名	地理歴史科	科目名	地理探究	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・地理的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる基本的な知識を獲得する。		・地理的観点から空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの地理的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	
学習内容の概要	「現代世界の地理的諸課題を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という指導要領に示された目標が本科目の目標である。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	帝国書院 新詳地理探究				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度	
4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類	1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活 1 地球儀と地図 2 身の回りの地図	15	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ②位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
5	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	1 現代世界の国家 2 日本の位置や領域 1 国家間の結び付き	20	①方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 ②現代世界の地域構成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活	15	①世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
7	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 -オセアニア- モンスーンの影響を受ける地域での生活 -東南アジア-	1 人々をひきつける多様な自然環境 2 自然環境を生かした産業と人々の生活 1 モンスーンの影響を受けてきた人々の生活 2 気候を生かした農業と人々の生活	20	①地域によって大きく異なる気候について理解している。 ②多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
8	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化	5	①言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している。 ②多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
9	4節 歴史的背景と人々の生活 移民の歴史と人々の生活の関わり -ラテンアメリカ- 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり -サハラ以南アフリカ-	1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制が生み出した社会構造 3 外国資本による工業化と生活の変化	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②人々の生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
10	国家体制の変化と人々の生活の関わり -ロシア- 5節 世界の産業と人々の生活	1 国家体制の変化が人々の生活に与えた影響 2 変化するロシアの産業	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
11	産業力が世界の生活文化に与える影響 -アメリカ合衆国- 経済成長による人々の生活の変化 -東アジア-	1 世界に大きな影響力をもつ知識産業と資源 2 世界の食卓に影響を与える農業 3 産業の発展を支えてきた移民の力	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
12	地域統合が人々の生活や産業に与える影響 -ヨーロッパ- 第2章 地球的課題と国際協力	1 EU統合と人々の生活 2 EU統合による農業への影響 3 EU統合による工業や社会への影響	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
1	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題	1 多様な地球環境問題 2 熱帯林の破壊への対策 3 地球温暖化への対策	15	①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ②主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
2	3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題	1 世界のエネルギー・鉱産資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取り組み	15	①国によって異なる電力構成、鉱産資源の利用について理解している。 ②鉱産資源の利用について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候	15	①各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 ②地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	

教科名	地歴公民科	科目名	日本史探究Ⅱ	単位数	5単位
対象学年 学科・コース	3年普通科 特別進学コース (α・β)	履修形態	選択	授業形態	講義・ 演習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
諸事象について、日本国内だけでなく世界との関わりを相互的な視野から捉え、理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。		諸事象の意味や意義、特色や相互の関連性などに着目し、多面的・多角的に考察したり問題解決を視野に入れ、説明や議論する力を養う		よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	
学習内容の概要	室町時代、戦国時代、織豊政権、江戸幕府、諸外国との関わりにおいて近代化を進め、開国し、明治政府、大正・昭和・平成時代への流れを整理・確認しながら様々な分野にわたり考察していく。				
評価の観点・ 評価方法	①知識・技能…定期テストの得点率・小テストの得点率 ②思考・判断・表現…定期テストの得点率・小テストの得点率 ③主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度・授業態度				
使用教材	①教科書「日本史探究 詳説 日本史」(山川出版社) ②教科書準拠問題集「詳説 日本史探究 10分間テスト」(山川出版社) ③資料プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第Ⅱ部中世 第7章 武家社会の成長	・室町幕府の衰退 ・室町文化・戦国大名の登場	15	南北朝の動乱期から室町幕府成立までの経過を整理し、幕府の衰退と戦国大名の台頭を考察する。	
5	第Ⅲ部近世 第8章 近世の幕開け	・織豊政権・桃山文化	20	織豊政権との関連性を考察し、「天下」統一の内実を分析し、幕藩体制の基本的構造を多面的に理解する。	
6	第9章 幕藩体制の成立と展開	・江戸時代初期・中期	20	鎖国体制の完成までの経緯を理解し、武断政治から文治政治への転換を把握する。	
7	第10章 幕藩体制の動揺	・江戸時代後期	20	享保の改革から天保の改革までの諸改革の基本的政策を踏まえ、関連する事象を整理して理解する。	
8	第Ⅳ部近現代 第11章近世から近代へ	・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府	5	諸外国との関わりを踏まえ、江戸幕府の列強への対応の中で登場した尊王論と倒幕論がどのように結合したかを経緯を理解する。	
9	第12章 近代国家の成立	・明治時代初期	15	明治政府による近代化を進めた諸政策を踏まえ、憲法制定や国会開設などの経緯を理解する。	
10	第13章 近代国家の展開	・日清・日露戦争 ・第一次世界大戦 ・ワシントン体制	20	明治政府の内政と日清・日露戦争を関連付けし、また、大正デモクラシーの背景を考察する。	
11	第14章 近代の産業と生活	・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活と大衆文化	20	政府が近代化を進める中で、市民生活にどのような影響があったのかを多面的に理解する。	
12	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	15	1920年代～1930年代にかけての外交の相違を整理し、東アジア諸地域への政策を関連付けて理解する。また、アジア太平洋戦争の経過、戦後の日本の経済史・政治史など多面的に整理し、どのように現代に繋がっているか関連性を見出す。	
1	第16章 占領下の日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	15		
2	第17章 高度成長の時代	・55年体制 ・戦後復興から高度経済成長	15		
	第18章 激動する世界と日本	・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容			

教科名	地歴公民科	科目名	日本史探究Ⅱ	単位数	5単位
対象学年 学科・コース	3年普通科 進学コース	履修形態	選択	授業形態	講義・ 演習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
諸事象について、日本国内だけでなく世界との関わりを相互的な視野から捉え、理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。		諸事象の意味や意義、特色や相互の関連性などに着目し、多面的・多角的に考察したり問題解決を視野に入れ、説明や議論する力を養う		よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	
学習内容の概要	室町時代、戦国時代、織豊政権、江戸幕府、諸外国との関わりにおいて近代化を進め、開国し、明治政府、大正・昭和・平成時代への流れを整理・確認しながら様々な分野にわたり考察していく。				
評価の観点・ 評価方法	①知識・技能…定期テストの得点率・小テストの得点率 ②思考・判断・表現…定期テストの得点率・小テストの得点率 ③主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度・授業態度				
使用教材	①教科書「日本史探究 詳説 日本史」（山川出版社） ②教科書準拠問題集「詳説 日本史探究 10分間テスト」（山川出版社）③資料プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第Ⅱ部中世 第7章 武家社会の成長	・室町幕府の衰退 ・室町文化・戦国大名の登場	15	南北朝の動乱期から室町幕府成立までの経過を整理し、幕府の衰退と戦国大名の台頭を考察する。	
5	第Ⅲ部近世 第8章 近世の幕開け	・織豊政権・桃山文化	20	織豊政権との関連性を考察し、「天下」統一の内実を分析し、幕藩体制の基本的構造を多面的に理解する。	
6	第9章 幕藩体制の成立と展開	・江戸時代初期・中期	20	鎖国体制の完成までの経緯を理解し、武断政治から文治政治への転換を把握する。	
7	第10章 幕藩体制の動揺	・江戸時代後期	20	享保の改革から天保の改革までの諸改革の基本的政策を踏まえ、関連する事象を整理して理解する。	
8	第Ⅳ部近現代 第11章近世から近代へ	・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府	5	諸外国との関わりを踏まえ、江戸幕府の列強への対応の中で登場した尊王論と倒幕論がどのように結合したかを経緯を理解する。	
9	第12章 近代国家の成立	・明治時代初期	15	明治政府による近代化を進めた諸政策を踏まえ、憲法制定や国会開設などの経緯を理解する。	
10	第13章 近代国家の展開	・日清・日露戦争 ・第一次世界大戦 ・ワシントン体制	20	明治政府の内政と日清・日露戦争を関連付けし、また、大正デモクラシーの背景を考察する。	
11	第14章 近代の産業と生活	・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活と大衆文化	20	政府が近代化を進める中で、市民生活にどのような影響があったのかを多面的に理解する。	
12	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	15	1920年代～1930年代にかけての外交の相違を整理し、東アジア諸地域への政策を関連付けて理解する。また、アジア太平洋戦争の経過、戦後の日本の経済史・政治史など多面的に整理し、どのように現代に繋がっているか関連性を見出す。	
1	第16章 占領下の日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	15		
2	第17章 高度成長の時代	・55年体制 ・戦後復興から高度経済成長	15		
	第18章 激動する世界と日本	・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容			

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究Ⅱ	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
学習内容の概要	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	世探704 世界史探究「詳説世界史」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	15	（知識・技能） 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	
5	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	15	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
6	第14章 アジア諸地域の動揺	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
7	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	15	（知識・技能） 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。	
8	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	5	（知識・技能） 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。	
9	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、学習に取り組もうとしている。	
10	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	20	（知識・技能） 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。	
11	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	20	1990年前後の各地の様子を写した図像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	
12	地球世界の課題の探究	地球世界の課題の探究	15	（主体的に学習に取り組む態度） 地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。	
1	共通テスト 2次試験対策	共通テスト、2次試験対策を行う。	15	2次試験対策を行う。	
2	2次試験対策	2次試験対策を行う。	20	2次試験対策を行う。	
3					

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究Ⅱ	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
学習内容の概要	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	世探704 世界史探究「詳説世界史」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	15	（知識・技能） 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。	
5	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	15	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
6	第14章 アジア諸地域の動揺	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
7	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	15	（知識・技能） 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。	
8	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	5	（知識・技能） 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。	
9	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、学習に取り組もうとしている。	
10	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	20	（知識・技能） 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。	
11	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	20	1990年前後の各地の様子を写した図像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。	
12	地球世界の課題の探究	地球世界の課題の探究	15	（主体的に学習に取り組む態度） 地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。	
1	共通テスト 2次試験対策	共通テスト、2次試験対策を行う。	15	2次試験対策を行う。	
2	2次試験対策	2次試験対策を行う。	20	2次試験対策を行う。	
3					

教科名	公民科	科目名	政治経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることにについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 政治経済・政治経済整理ノート				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原則	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	(思考・判断・表現) ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原則	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割 2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義	4	(知識・技能) ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		1.選挙と選挙制度	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ 1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	(主体的に学習に取り組む態度) ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	(知識・技能) ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	8	(思考・判断・表現) ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	(思考・判断・表現) ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解」している。	
11	第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	3 3	(思考・判断・表現) ・得られた知識をもとに論点を整理し、その解決に向けた思考・判断ができるようになる。	
12	第2節 現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	(知識・技能) ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	(思考・判断・表現) ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済		(知識・技能) ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	公民科	科目名	政治経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることにについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 政治経済・政治経済整理ノート				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原則	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	(思考・判断・表現) ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原則	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割 2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義	4	(知識・技能) ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		1.選挙と選挙制度	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ 1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	(主体的に学習に取り組む態度) ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	(知識・技能) ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	8	(思考・判断・表現) ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	(思考・判断・表現) ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。	
11	第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	3 3	(思考・判断・表現) ・得られた知識をもとに論点を整理し、その解決に向けた思考・判断ができるようになる。	
12	第2節 現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	(知識・技能) ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	(思考・判断・表現) ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済		(知識・技能) ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	公民科	科目名	政治経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 総合選択コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることにについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 政治経済・政治経済整理ノート				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原則	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	(思考・判断・表現) ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原則	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割	4	(知識・技能) ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義 1.選挙と選挙制度	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ 1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	(主体的に学習に取り組む態度) ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	(知識・技能) ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	8	(思考・判断・表現) ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成	4	(思考・判断・表現) ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解」している。	
		1.生きることを考えること 2.世界の宗教	4		
11	第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容	3	(思考・判断・表現) ・得られた知識をもとに論点を整理し、その解決に向けた思考・判断ができるようになる。	
		1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	3		
12	第2節 現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	(知識・技能) ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	(思考・判断・表現) ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	6	(主体的に学習に取り組む態度) ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済		(知識・技能) ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース（理系）	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
数列の極限、関数とその極限、微分法、及び積分法における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける。		数学的な活動を通して、数列の極限、関数とその極限、微分法、及び積分法における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。		数学的な活動を通して、数列の極限、関数とその極限、微分法、及び積分法における考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりすることができる。	
学習内容の概要	数列の極限、関数とその極限、微分法、積分法について、事象を数学的に考察したり多面的に捉える能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「数学Ⅲα」、傍用問題集「アドバンス数学Ⅲ」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第1章 数列の極限 第1節 無限数列	1 無限数列の極限 2 無限等比数列の極限	10	数列の極限、無限等比級数や一般の無限級数の収束・発散について理解し、それらを事象の考察に活用できるようになる。	
5	第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	16	関数の概念の理解を一層深め、いろいろな関数について、その関数値の極限を求める。また、関数の性質を考える上で重要になる関数の連続性を関連して扱い、それらを事象の考察に活用できるようになる。	
6	第2節 関数の極限と連続性	1 関数の極限 2 いろいろな関数の極限 3 関数の連続性 4 連続関数の性質	16		
7	第3章 微分法 第1節 微分と導関数	1 微分可能と連続 2 微分と導関数 3 合成関数と逆関数の微分法	14		
8	第2節 いろいろな関数の導関数	1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 高次導関数	18	数学Ⅱで学んだことを更に発展させ、和・差・積・商および合成関数の微分法を扱い、初等関数の導関数について理解する。また、関数の増減やグラフの凹凸、速度と加速度などの考察を通して、微分法の有用性を認識させるとともに、具体的な事象の考察に活用できるようになる。	
9					
10	第3節 導関数と関数のグラフ	1 接線・法線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の増減 4 第2次導関数とグラフ	16		
11	第4節 微分法の応用	1 最大・最小 2 方程式、不等式への応用 3 曲線の媒介変数表示と微分法 4 速度と加速度 5 関数の近似式	16		
12	第4章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分	1 不定積分 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 1 定積分 2 定積分で表された関数の微分 3 区分求積法と定積分	12	微分法と同様に、取り扱う関数の範囲を広げて積分法を考察する。積分の基本的な性質や置換積分法、部分積分法について理解し、これらの方法に習熟するとともに、その有用性を認識し、図形の面積や立体の体積、曲線の長さなどを求めることに活用できるようになる。	
1	第3節 積分法の応用	1 面積 2 体積 3 曲線の長さ	10		
2	受験対策	個別指導を中心に行う。	16		
3					

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース（文系）	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
ベクトルについて理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ（平面上のベクトル・空間のベクトル）。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「数学Cα」、傍用問題集「マスグレード数学B+C」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	ベクトルの演習①	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。	
5		位置ベクトル	3		
6		空間ベクトル	3		
7	ベクトルの演習②	ベクトル分野共通テスト対策	4	ベクトルや内積の基本的な性質を用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察することができる。また、数量や図形およびそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえて、ベクトルや内積の考えを用いて問題解決に向かうことができる。	
8		ベクトル分野共通テスト対策	2		
9		ベクトル分野共通テスト対策	4		
10		ベクトル分野共通テスト対策	4		
11		ベクトル分野共通テスト対策	4		
12		ベクトル分野共通テスト対策	3		
1		ベクトル分野共通テスト対策	3		
2		ベクトル分野2次試験・私立大学対策	3		
3					

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース（理系）	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。	
学習内容の概要	平面上の曲線、数学的な表現の工夫について学習する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「数学Cα」，傍用問題集「アドバンス数学B+C」，Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	2次曲線	放物線 楕円 双曲線	7	放物線、楕円、双曲線が二次式で表せることおよびそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できる。また、これらを相互に関連付けて捉えて考察することができる。	
5		2次曲線の平行移動 2次曲線と直線の共有点 2次曲線と離心率	7		
6	媒介変数と極座標	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	8	曲線の媒介変数表示について理解できる。極座標の意味および曲線が極方程式で表せることについて理解できる。	
7		色々な曲線	6		
8	数学と日常生活	行列 離散グラフと行列 統計グラフ	4	日常の事象や社会の事象を数学的にとらえ、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標および複素数平面の考えを問題解決に利用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。	
9		統計グラフの応用	8		
10	受験対策授業	共通テスト対策	8	共通テストで70％以上の得点を取ることができる。	
11			8		
12			6		
1		私大・2次試験対策	6	志望校の合格に向けて取り組むことができる。	
2			4		
3					

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
ベクトルについて理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ（平面上のベクトル・空間のベクトル）。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「深進数学C」、傍用問題集「Axis数学B+C」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	ベクトルの演習①	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。	
5		位置ベクトル	3		
6		空間ベクトル	4		
7	ベクトルの演習②	ベクトル分野共通テスト対策	4	ベクトルや内積の基本的な性質を用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察することができる。また、数量や図形およびそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえて、ベクトルや内積の考えを用いて問題解決に向かうことができる。	
8		ベクトル分野共通テスト対策	2		
9		ベクトル分野共通テスト対策	3		
10		ベクトル分野共通テスト対策	4		
11		ベクトル分野共通テスト対策	4		
12		ベクトル分野共通テスト対策	3		
1		ベクトル分野共通テスト対策	3		
2		ベクトル分野2次試験・私立大学対策	3		
3					

教科名	数学	科目名	応用数学	単位数	4
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 特別進学コース（文系）	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
数学ⅠⅡABCでの学習事項が定着している。		数学ⅠⅡABCの基本的な事項を用いて、共通テストレベルの問題を7割程度解くことができる。		自己の力を認識し、自分に合った難易度の問題を適切に選択し、学習に取り組むことができる。	
学習内容の概要	数学ⅠAⅡBC共通テストおよび私立大学入試対策				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	数学ⅠA復習	自主教材を用いて入試の基本事項の総復習を行う。	16	教科書の間および節末問題レベルの問題が解けるようになる。	
5	数学ⅠA復習		16	教科書の間および節末問題レベルの問題が解けるようになる。	
6	数学Ⅱ復習		16	教科書の間および節末問題レベルの問題が解けるようになる。	
7	数学BC復習		12	教科書の間および節末問題レベルの問題が解けるようになる。	
8	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	20	共通テストで70%以上の得点率が取れるようになる。	
9					
10			16		
11			16		
12			12		
1			12		
2	国公立2次試験対策	過去問を用いて受験対策を行う。	12	志望校合格を勝ち取る。	
3					

教科名	数学	科目名	数学研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。 また、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
学習内容の概要	数学ⅠA分野を中心に、演習を行なうことによって、総合的思考力を身につける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	数学ⅠA演習	数と式 集合と命題	9	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
5		2次関数	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
6		図形と計量	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
7		データと分析	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
8		場合の数と確率	6	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
9	数学ⅠA共通テスト 対策 演習	数と式 集合と命題	9	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
10		2次関数 図形と計量 データと分析	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
11		場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
12		共通テスト対策演習 （ⅠA全範囲）	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基礎～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
1		共通テスト対策演習 （ⅠA全範囲）	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基礎～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。	
2					
3					

教科名	数学	科目名	数学総合Ⅱ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。 また、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよう				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	「高校生の基礎数学トレーニング」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	数学ⅠA分野の演習	数の計算 比率と割合・比例と反比例	8	基礎・基本の確実な定着を目指す。また、生活の中での事象を数式を用いて表し解くことで、数学が生活の一部であることを認識する。	
5		文字式・整式の計算 乗法公式による展開と因数分解	8		
6		無理数の計算 1次方程式	8		
7		2次方程式 不等式	8		
8		1次関数とグラフ 2次関数とグラフ	4		
9		図形と角・合同な図形・平行線と線分	8		
10		図形と面積・体積 三角比	8		
11		集合と要素・命題と証明 場合の数と確率	8		
12		表の読み取り・資料の整理	6		
1		さまざまな問題① さまざまな問題②	6		
2					
3					

教科名		理科	科目名	物理	単位数	3 単位	
対象学年		第3学年 普通科特別進学コース理系選択		履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標		大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。					
知識・技能			思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度		
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。			習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。		
学習内容の概要		自然界における現象を基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。					
学習方法		実験や視聴覚教材を利用し、演習問題を通して教科書の内容を理解させる。					
評価の観点・評価方法		教務規定に従い評価する。					
使用教材		教科書、実教出版 物理 問題集、実教出版 エクセル物理総合版、第一学習社 ビーライン物理					
その他		生徒の進路や習熟度に応じて課題提出や問題演習を行う。					
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学 習 内 容		時間	学習のポイント		主な学校行事
4	3章 電気と磁気	1節 電荷と電場 ①静電気 ②電場 ③電位 ④コンデンサー		40	電荷にはたらく遠隔力から電界の存在を理解し、電界のする仕事と位置エネルギーの関係から電位及び電位差を理解する。 コンデンサーの原理と働きを理解させる。導体を移動する自由電子から電流について理解する。 電気抵抗と回路を流れる電流の関係を理解する。電流の向きと大きさについてしっかりと理解する。電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則をきちんと理解する。 半導体について、電流が流れる仕組みや特徴を理解する。		始業式
5		2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路			磁場の定義を確認し、直線電流、円電流、ソレノイドの内部それぞれがつくる磁場について理解する。電流が磁場から受ける力を考察し、運動する荷電粒子が磁場から受ける力(ローレンツ力)について理解する。 ファラデーの電磁誘導の法則を理解させるとともに、交流の発生の仕組み、自己誘導と相互誘導、交流回路についても理解する。		中間考査
6		3節 磁場と電流 ①磁場 ②電流が磁場からうける力 ③ローレンツ力					期末考査
7		4節 電磁誘導と電磁波 ①電磁誘導の法則 ②自己誘導と相互誘導 ③交流 ④電磁波					
8		4章 原子	1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③電子の波動性		48	光子を用いたアインシュタインの考えによって、光電効果が説明できることを理解する。X線の発生とその原理を学習し、特性X線や連続X線、最短波長などについて理解する。物質波について学習し、弱い光源によるヤングの実験をもとに、粒子性と波動性の二重性を理解する。 ラザフォードの原子模型、ボーアの原子模型について説明し、水素のエネルギー準位を理解する。放射線の種類と本体、放射能と放射線の性質と利用について説明し、理解する。原子核反応の前後で質量数の和と原子番号の和はそれぞれ変わらないことを理解し、質量欠損、結合エネルギーの定義を正しく理解する。素粒子とは何かを把握させ、その種類について説明し、理解する。	
9	2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核 ③原子核反応 ④素粒子		中間考査				
10							
11							
	終章	物理学が築く未来					
12	問題演習			20			期末考査
							終業式
1					演習問題を通じて現象を正しく把握し、法則のもつ本来の意義を十分理解する。 基本から応用まで取り組むようにする。		始業式
2							
3							終業式

教 科 名		理 科	科 目 名	化 学	単 位 数	3 単 位			
対 象 学 年		第 3 学 年 普通科特進（理系）		履 修 形 態	必 修	授 業 形 態	講 義		
知識・技能			思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度				
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。			習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。				
科 目 の 目 標		自然の事物・現象について、化学的に考察する能力と態度を身に付ける。							
学 習 内 容 の 概 要		自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。							
学 習 方 法		教科書の内容を主に講義によって授業を受ける。問題集は各自が自宅で学習する。							
評 価 の 観 点 ・ 評 価 方 法		教務規定に従い評価する。							
使 用 教 材		数研出版「新編 化学」， 数研出版「リードLightノート 化学」							
そ の 他		希望大学の受験勉強については各自で行うこと。 勉強の仕方やわからない所などは自主的に質問すること。							
年 間 授 業 計 画									
月	項 目		学 習 内 容		時間	学習のポイント		主な学校行事	
4	無機物質		典型金属元素		16	元素を周期表に基づいて分類し、単体や化合物の性質を広く学ぶ。 金属元素は非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目して学習する。また、金属元素を典型金属元素と遷移元素に分けその違いについても学ぶ。		始業式	
								中間考査	
5									
6			遷移元素		10			期末考査	
7	有機化合物		有機化合物の分類と分析 脂肪族化合物 アルコールと関連化合物 芳香族化合物		10	有機化合物の特徴や分類法、成分元素の検出、分子式を求める方法などを学ぶ。分子の構造に基づく有機化合物の考え方を把握する。 ベンゼン環をもつ化合物の種類とその性質を学ぶ。		終業式	
								始業式	
					8				
9									
10	高分子化合物		高分子化合物の特徴		28	生体を構成する有機化合物の組成や構造と性質の関係を学ぶ。合成高分子化合物の組成や構造と性質の関係を学ぶ。		中間考査	
11			天然有機化合物 高分子化合物						
12	総復習と共通テスト対策				9	模擬試験の過去問，共通テスト用問題集を中心に学習し，実力を養成する。		終業式	
								始業式	
1	私立、国公立二次対策				17	国・公・私立大学の過去問を中心に学習し，より深い内容を理解する。			
2									
3								卒業式	

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3 単位		
対象学年	第3学年特進理系生物選択	履修形態	必修	授業形態	講義		
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度			
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。			
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、共通テストに必要な学力をつけさせることを目標とする。						
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。						
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。						
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。						
使用教材	教科書、 数研出版 生物 問題集、 数研出版 新課程リードLightノート 生物						
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう						
年 間 授 業 計 画							
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事		
4	第4編 生物の環境応答	第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容	38	視覚は目の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって刺激を受ける仕組みがそれぞれ異なることを理解する。ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンに伝えられることを理解する。人の神経系が末梢神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が神経系から伝達された刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。動物の行動は遺伝的にプログラムされた生得的な行動と、経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。	中間調査		
5		2. ニューロンとその興奮					
6		3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動					
7		第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン	47	植物は周囲の環境の変化を感じて、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報伝達には植物ホルモンが働いていることを理解する。植物の種子が周囲の環境を感じて休眠・発芽するしくみとその意義を理解する。植物の成長は光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長には植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。植物は葉・茎・根・花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官分化は成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。植物が環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。植物が病気や食害、生育に不適当な環境でどのように自身を守っているのかを理解する。被子植物における配偶子の形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の塾生のしくみを理解する。	期末考查		
8					2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節	終業式	
9					5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	始業式	
10					第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質	中間調査	
11							2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活
12							
1		共通テスト対策	23	生徒個々の進路に応じ受験対策にあてる。	終業式		
2		2次試験対策			始業式		
3					卒業式		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 男子	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。		自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。	
学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価				
使用教材					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	9	集団行動の基本行動と身につけることができる	
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	12	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。	
6	陸上	投擲 跳躍	12		
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム アンダーハンドパス	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
8	バレーボール	オーバーハンドパス サーブ	3		
9	バレーボール	アタック ゲーム	12		
10	ソフトテニス	基本語術の習得・ゲーム 乱打	12	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
11	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	9	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
12	サッカー	基本技術の習得・ゲーム リフティング、パス ドリブル、ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、サッカーの基本技術を身につけるとともに、サッカーの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
1	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
2	バスケットボール	パス、シュート ディフェンス ゲーム	12		
3					

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 女子	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。		自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。	
学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価				
使用教材					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	9	集団行動の基本行動と身につけることができる	
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	12	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。	
6	陸上	投擲 跳躍	12		
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング アンダーハンドパス オーバーハンドパス サーブ アタック ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
8	バレーボール		3		
9	バレーボール		12		
10	バレーボール		12		
11	ソフトテニス	基本語術の習得・ゲーム 乱打	9	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
12	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング パス、シュート ディフェンス、ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
1	バスケットボール		9		
2	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	12	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
3					

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第3学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ知識や得た情報を理解・整理し、的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。		英語を用いて積極的に相手とのコミュニケーションや課題に向かう態度を身につけることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく「英語コミュニケーションⅢ」の内容のコミュニケーション活動とそれをさらに発展させた活動（プレゼンテーション等）を行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習の5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）における諸活動や定期考査、小テスト等の結果を基に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	『MY WAY English CommunicationⅢ』（三省堂）、『MY WAY English CommunicationⅢ Workbook』（三省堂）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Strategy for Listening & Reading 1・2	言語・環境に関する英語を読んだり、聞いたりして、理解を深める。	12	●英語の混成語について、理解して考えを深めることができる。●ロンドンが国立公園都市宣言をしたことについて、理解して考えを深めることができる。	
5	Strategy for Listening & Reading 3・4	科学技術・食文化に関する英語を読んだり、聞いたりして、理解を深める。	16	●空飛ぶ車について、理解して考えを深めることができる。●昆虫食について、理解して考えを深めることができる。	
6	Strategy for Listening & Reading 5・6	伝統文化・心理に関する英語を読んだり、聞いたりして、理解を深める。	16	●ドラゴンボートレースについて、理解して考えを深めることができる。●「単純接触効果」についての特別講義の概要や要点、詳細を聞き取る。	
7	Strategy for Listening & Reading 7・8	動物・共生に関する英語を読んだり、聞いたりして、理解を深める。	12	●地雷探知ネズミについて、理解して考えを深めることができる。●人々を元気づける歌について、理解して考えを深めることができる。	
8	Lesson 1	「値段のないカフェ」が地域にもたらす効果について学ぶ。	4	●「値段のないカフェ」について、理解して考えを深めることができる。	
9	Lesson 2・3	日本で発見された新元素について学ぶ。お茶の消費量が多い国とその理由を学ぶ。	16	●ニホニウムが発見された経緯について、理解して考えを深めることができる。●中東やアフリカでお茶が多く飲まれる理由について、理解して考えを深めることができる。	
10	Lesson 4・5	折り紙の効果について学ぶ。英語のスプリングについて学ぶ。	16	●折り紙の効果について、理解して考えを深めることができる。●英語のつづりの特徴について、理解して考えを深めることができる。	
11	Lesson 6	日本の研究チームが、AIを用いて新たなナスカの地上絵を発見したことについて学ぶ。	16	●ナスカの地上絵研究とAIの活用について、理解して考えを深めることができる。	
12	Lesson 7	あるガンビア人女性による、廃棄物から新たな製品を生み出す「アップサイクル」への取り組みについて学ぶ。	12	●アイサト・シーセイさんのアップサイクル活動について、理解して考えを深めることができる。	
1	Lesson 8	学校に「昼寝の時間」を導入すべきかどうかをめぐり、賛否について学ぶ。	8	●学校に昼寝の時間を導入することの是非について、理解して考えを深めることができる。	
2	Lesson 9	世界には「犬税」を徴収する国がある。その導入についての賛否について学ぶ。	16	●犬税を導入することの是非について、理解して考えを深めることができる。	

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
標準的な英語で書かれた英文や対話文を読んだり聞いたりし、その話題について概要を把握し、情報や考えを論理的に整理することが出来る。		日常的で身近な事柄を読んだり聞いたりし、その内容に関して自分の意見を持つことが出来る。また、自分自身や身近な日常の事柄について、簡単な語句・表現・文法を用いて簡潔に相手に伝えることが出来る。		課題を自ら見つけ、自律的に粘り強く学び続けようとしている。また、他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとしている。	
学習内容の概要	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査(80%)と小テスト(20%) 2. 【主体的に学習に取り組む態度】授業中の取り組みと提出物				
使用教材	教科書「VISTA English CommunicationⅢ」 ワークブック「VISTA English CommunicationⅢ Workbook」（三省堂 2024年）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	L1 English as an International Language	英語の歴史 【be動詞・一般動詞】	12	英語の歴史を知り、どのような国で使われ、どのような影響を受けているのかについて理解できる。本文を音読できる。英語について思うことを書くことができる。	
5	L2 Digital Art	観光やスポーツに応用されるデジタルアート 【現在完了形】	16	観光やスポーツにも応用されているデジタルアートの現状を読み、内容を理解できる。本文を音読できる。デジタル技術について書いて伝えることができる。	
6	L3 Sports Unite People for Peace	南スーダンの「国民結束の日」【受け身】	16	南スーダンの平和に貢献する「国民約束の日」について読み、本文の内容を理解できる。本文を音読できる。平和に必要なだと思うことについて書くことができる。	
7	L4 Let's Have a Picnic!	仏、英、日本におけるピクニックの歴史 【動名詞・不定詞】	12	フランスやイギリス、日本におけるピクニックの歴史を読み、本文の内容を理解できる。本文を音読できる。海外の食文化について書くことができる。	
8	L5 Dresden Elbe Valley	ドレスデンエルベ渓谷が世界遺産から削除された経緯 【関係詞】	4	ドレスデン・エルベ渓谷が世界遺産リストから削除された経緯を読み、内容を理解できる。本文を音読できる。訪れたい世界遺産について書くことができる。	
9	L6 Flowers from life	動物殺処分ゼロを目指した取り組み【分詞】	16	動物の殺処分ゼロを目指した「いのちの花プロジェクト」について読み、内容を理解できる。本文を音読できる。印象に残っている活動について書くことができる。	
10	L7 Global Refugee Crisis	難民問題への国連の取り組み【比較・最上級】	16	国際的に問題となっている難民について実態や国連の取り組みについて読み、内容を理解できる。本文を音読できる。プレゼンテーションの感想を書くことができる。	
11	L8 Dream Bigger, Go Further	植松努さんの生き方 【形式主語it】	16	「どうせ無理」と言われても諦めずに夢を叶えた植松さんの夢に対する思いを読み、内容を理解できる。本文を音読できる。英語学習と自分の夢とのつながりについて書くことができる。	
12	ER1 Little Prince	「大切なもの」	12	物語を読み、自分にとって「大切なもの」が何なのか物語を通じて考え、自分の「大切なもの」について書いて発表できる。	
1	ER2 After Twenty years	「友人との約束」	8	結末を想像しながら物語を読み、自分が登場人物と同じ立場だったらどうするか、書いて発表できる。	
2	ER2 After Twenty years	「友人との約束」	16	結末を想像しながら物語を読み、自分が登場人物と同じ立場だったらどうするか、書いて発表できる。	

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅰ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。		他者とのコミュニケーションを図ろうする態度を身に着けることができる。	
学習内容の概要	「論理・表現」の目標は、自ら考え、その考えを「英語で発信できる人」を育てること。「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の3つの領域で具体的活動を自立的に行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書「NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅠ」, WORKBOOKⅠ（東京書籍2024年）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	Speaking Interaction 留学生のホームステイ先での食事をモデルとした会話	6	褒めることができる 勧めることができる 断ることができる	
5	Lesson 2 道に迷う	Speaking Interaction 留学生がホストシスターと道に迷ってしまった会話	8	提案することができる 依頼することができる 道順を説明することができる	
6	Lesson 3 人物紹介 Lesson 4 体調が悪い	Speaking Production 先生の紹介 Speaking Interaction 熱を出しホストマザーに相談する	8	身近な人を紹介できる、注意を引くことができる 体調を伝えることができる、体調を尋ねることができる 指示・アドバイスをすることができる	
7	Lesson 5 買い物 Lesson 6 行ってみたい場所	Speaking Interaction スーパーへ買い出し Writing 行ってみたい場所	6	描写することができる、相づちを打つことができる 希望を述べることができる、理由を述べることができる	
8	Lesson 7 イベントに誘われる	Speaking Interaction 友達にイベントに誘われる	2	誘うことができる 誘いを受けることができる 誘いを断ることができる	
9	Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	Speaking Interaction 勉強が遅れて不安なことを相談	8	状況を説明することができる、手助けを申し出ることができる、助言・提案することができる、お礼や感謝を伝えることができる	
10	Lesson 9 お気に入りを紹介 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	Speaking Production 好きな本を紹介 Speaking Interaction 約束の時間に遅れて謝る	8	要約したり、感想や批評を述べることができる 相手に謝ったり、許したり励ましたりすることができる	
11	Lesson 11 家庭でのディスカッション	Speaking Interaction ホームステイ先の家族と市バスの問題について話す	8	共感を述べることができる 残念な気持ちを述べることができる 解決策を提案することができる	
12	Lesson 12 英字新聞に投稿	Writing 学校に対しての要望を英字新聞に投稿する	6	要望や主張を述べることができる 理由を述べることができる	
1	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	4	理由を述べることができる 例を挙げることができる	
2	Lesson 2 クラスでディベート②	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	8	相手の意見に反駁することができる 相手の意見を引用することができる	

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅱ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ知識や得た情報を理解・整理し、的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。		英語を用いて積極的に相手とのコミュニケーションや課題に向かう態度を身につけることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく「論理・表現Ⅰ」の内容。各課では学習項目のインプットだけでなく、思考・判断・表現の力の育成に向けた表現活動も重視して行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習の5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）における諸活動や定期考査、小テスト等の結果を基に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書『MY WAY Logic and Expression Ⅱ』、『MY WAY Logic and Expression Ⅱ WORKBOOK』（三省堂）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Lesson 1 - Let's Talk About Ourselves	①相手の好きな経験を聞いたり話したりする。 ②母国の文化や特徴を述べる。	6	①現在完了形を使って、これまでの経験について会話する。②未来形を使って、好きな場所を紹介する。	
5	Lesson 2 - The New Wave of Sports	①お薦めのことについて切聞いたり話したりする。 ②最近のものを紹介する。	8	①助動詞の表現を使って、未来の予定について話す。②助動詞の表現を使って、最近のものを紹介する。	
6	Lesson 3 - The Future of Technology	①社会生活に大きく影響する技術について会話する。 ②最近買った品物について書く。	8	①印象深かった授業について伝え合う。②贈り物について説明する文章を書く。	
7	Lesson 4 - Rediscover Kabuki	①日本の文化について話す。②海外でもしられるようになった日本の文化を英語で説明する。	6	①進行形・受動態・完了形の不定詞・原形不定詞を使って、日本の文化について話す。②日本の文化について発表する。	
8	Lesson 5 - Will Our Lives Change with AI?	①無人レジについて会話をする。②従来の社会の状況と職業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝える。	2	①色々な科学技術について会話をする。②将来の社会の状況と職業について書く。	
9	Lesson 6 - Experience Madagascar's Wildlife	①物の数や大きさについて、会話をする。②マダガスカル島について、詳しい情報や自分の考えを伝える。	8	①比較級・最上級・同等比較を使い、物の数や大きさなどについて伝え合う。②倍数表現・比較の強調などを使い、世界や日本の有名な場所について伝える。	
10	Lesson 7 - Can We Go and Live on Mars?	①火星についての情報や、自分の考え、気持ちを伝え合う。②火星での生活についての情報や、自分の考えを詳しく伝える。	8	①関係代名詞・関係副詞を使い、火星の環境を伝え合う。②関係代名詞・関係副詞を使い、火星での生活について書く。	
11	Lesson 8 - Language and Society	①イギリスとカナダで使われる英語の違いについて伝え合う。②「もし〇〇がなかったら」というタイトルで発表する。	8	①仮定法過去形・仮定法過去完了形を使い、外国について伝え合う。②仮定法を使い、「もし〇〇がなかったら」というタイトルで発表する。	
12	Lesson 9 - Send Our Love to the World	①世界の貧困問題について、伝え合う。②食の不均衡の問題についての情報や、自分の考えを伝える。	6	①否定の表現や色々な経験・物事を説明する表現などを使い、悩み事について伝え合う。②代名詞を用いて、社会問題について書く。	
1	Lesson 10 - Follow in Our Hero's Footsteps	①調べ学習での会話をする。②関心のある人物を紹介するスピーチをする。	4	①無生物主語構文を使い、情報を追加したり感想を言うなどして、関連する話題で会話をする。②thatを使った表現を用いて、人物について詳しく説明する。	
2	Special Activity	「私たちの未来」というタイトルのスピーチの構成や表現を使ってスピーチをする。	8	自分の未来についてのスピーチをする。他者の発表を聞き、感想を伝える。	

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅲ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第3学年 特別進学 コースαβ文系	履修形態	必修	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
①適切な語彙や文法・表現を使って伝えることができる。②十分な情報や考えを伝えることができる。		①主題を決め、様々な種類の文章を〔50～100語※程度で〕書くことができる。②文章の構成を意識しながら書くことができる。		社会的な話題や時事問題について書かれている説明や評論などを精読して、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。	
学習内容の概要	①学習指導要領に基づく論理表現の内容。②ICTを活用して文化や英文などについて調べ、学習する。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期とも、定期考査や小テストの【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】考査点と【主体的な学習に取り組む態度】3つの観点で評価を行う。				
使用教材	Earthrise English Logic and Expression III Standard - Suken Shuppan				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Lesson 1 Lesson 2	New Year's Celebration Working and Studying Online	9	①意見・希望・欲求を述べる。②賛成・反対を述べる。	
5	Lesson 3 Lesson 4	Recreation Open Campus	12	①勧誘する・招待する、期待する。②計画・意図を述べる。	
6	Lesson 5 Lesson 6	Places to Buy Lunch A Helping Hand	12	①提案・助言を行う。②程度・譲歩を述べる。	
7	Lesson 7	Online Shopping	9	依頼・要請を行う。	
8	Lesson 8	Sharing Information	3	許可を求める。	
9	Lesson 9 Lesson 10	Fixing Dates Work Experience Programs	12	① 謝罪する・謝罪に応じる。 ② 感謝・喜びを述べる。	
10	Part 2 Lesson 1	Electronic Devices / Home Appliances Travel Advertisement	12	①パラグラフ基礎 ② 例示・列挙	
11	Part 2 Lesson 2 Part 2 Lesson 3	Animal Features Environmental Issues	12	①比較・対照 ②原因・結果	
12	Part 2 Lesson 3	History of Japanese Emmigration to Brazil	9	時間的順序	
1	Speech & Presentation	プレゼンテーションの 構成と進め方	6	聞き手に分かりやすいプレゼンテーションをする。	
2	Discussion	ディスカッションの構 成と進め方	12	テーマに基づきグループでディスカッションをする。	

教科名	外国語（英語）	科目名	実用英語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。		実際に英語を使おうとする態度を身に着けることができる。	
学習内容の概要	中学校で習った英文法の復習や高等学校における新出の英文法を学習する。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】も3観点で評価を行う。				
使用教材	Zoom English Grammar（第一学習社2024年） / 例文ワークノート（第一学習社版準拠）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	英語のしくみ Get Ready 1 L1～L4	「…は～です」と「…は～します」、いろいろな文 (1)(2)、文の型(1)(2)	6	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
5	Get Ready 2 L5 L6	動詞の形 現在・過去 未来	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
6	L7 L8 L9～L10	現在完了 過去完了 助動詞(1)(2)	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
7	L11 L12	受動態(1)(2)	6	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
8	Get Ready 3	不定詞・動名詞・分詞	2	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
9	L13～L15 L16	不定詞(1)(2)(3) 動名詞	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
10	L17～L18 L19～L20	分詞(1)(2) 比較(1)(2)	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
11	Get Ready 4 L21～L22	後ろから名詞を修飾するパターン 関係詞(1)(2)	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
12	L23 Optional L1 Optional L2	仮定法 接続詞 話法	6	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
1	Optional L3	名詞・冠詞・代名詞 形容詞・副詞・前置詞 さまざまな構文	4	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
2	Optional L4 Optional L6	形容詞・副詞・前置詞 さまざまな構文	8	重要表現・語彙・文法の確認／ 素早く内容をつかむ／習った表現を言う・聴く・書く	
3					

教科名	商業科	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	3年生 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習形式
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
進路決定に向けて面接や小論文対策として必要なことを知る。また卒業後に使うことの増えるマナーや一般常識などを知る。		身につけるべきマナーや行動を考え、実行する能力を身につける。また、面接や小論文の実践力を身につける。		実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。	
学習内容の概要	進路決定に対応するため、受験方法やその特徴を知り、面接や小論文への対策を学ぶ。 また、社会へ出る準備として一般常識やマナー等を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テスト、提出物によって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	採用試験・受験に向けて 小論文を書くために	主に面接試験に向けて自己分析を行う 小論文を書くための準備として書式等のルールを知る	10	自己分析を行い、それをノートにまとめる 原稿用紙の使い方等を確認し、ノートにまとめる	
5	採用試験・受験に向けて 小論文を書くために	主に面接試験に向けて自己分析を行う 小論文を書くための準備として書式等のルールを知る	10	自己分析を行い、それをノートにまとめる 原稿用紙の使い方等を確認し、ノートにまとめる	
6	採用試験・受験に向けて	自己分析書などに基づいて面接演習を行う	13	自己分析を行い、それを自己分析書にまとめる 「自分」を理解し、表現できるようにする	
7	採用試験・受験に向けて	自己分析書などに基づいて面接演習を行う	10	「自分」を理解し、表現できるようにする 希望する進路について調べ、志望理由や学びたいことなどを表現できるようにする	
8	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う	7	1学期の復習をし、さらに具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う	
9	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知る	12	1学期の復習をし、さらに具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知り、実際に小論文作成の練習を行う	
10	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知る	12	具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知り、実際に小論文作成の練習を行う	
11	社会に出る準備	実社会で接する人々	12	広い年齢層の人たちと接するにあたって、どのような心構えが必要かを知る	
12	マナーを知る	冠婚葬祭のマナー (外部講師講演予定あり)	10	冠婚葬祭のマナーを知る	
1	マナーを知る	冠婚葬祭のマナー これまでのまとめ	8	冠婚葬祭のマナーを知る これまで学んだマナーのまとめ	
2			4		
3					

教科名	商業科	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	3年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・演習形式
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
社会人と学生の違いや、高校時代に習得しておくべき、社会人として必要なことを知る。また進学に対応した経済や経営に関する基礎知識を習得する。		身につけるべきマナーや行動を考え、実行する能力を身につける。また、経済や経営に関する知識を用いて歴史上の事項を経済・経営的に分析、判断する。		実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。	
学習内容の概要	進路決定に対応するため、受験方法やその特徴を知り、面接や小論文への対策を学ぶ。また、ビジネス系進学に備えて経済学や経営学の基礎を2年次に引き続き学ぶ。他、社会へ出る準備として一般常識やマナー等を学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テスト、提出物によって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	採用試験・受験に向けて 小論文を書くために	主に面接試験に向けて自己分析を行う 小論文を書くための準備として書式等のルールを知る	10	自己分析を行い、それをノートにまとめる 原稿用紙の使い方等を確認し、ノートにまとめる	
5	採用試験・受験に向けて 小論文を書くために	主に面接試験に向けて自己分析を行う 小論文を書くための準備として書式等のルールを知る	10	自己分析を行い、それをノートにまとめる 原稿用紙の使い方等を確認し、ノートにまとめる	
6	採用試験・受験に向けて	自己分析書などに基づいて面接演習を行う	13	自己分析を行い、それを自己分析書にまとめる 「自分」を理解し、表現できるようにする	
7	採用試験・受験に向けて	自己分析書などに基づいて面接演習を行う	10	「自分」を理解し、表現できるようにする 希望する進路について調べ、志望理由や学びたいことなどを表現できるようにする	
8	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う	7	1学期の復習をし、さらに具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う	
9	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知る	12	1学期の復習をし、さらに具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知り、実際に小論文作成の練習を行う	
10	採用試験・受験に向けて	自己分析書、希望進路先に基づいて面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知る	12	具体的な希望進路に向けてより実践的な面接演習を行う 小論文を書くためのポイントを知り、実際に小論文作成の練習を行う	
11	進学にも対応するビジネス知識 社会に出る準備	経済学・経営学で学ぶこと 実社会で接する人々	12	経済学・経営学とは何を学ぶものであるのか、その基礎を知る（2年次の復習と続き） 広い年齢層の人たちと接するにあたって、どのような心構えが必要かを知る	
12	マナーを知る	冠婚葬祭のマナー （外部講師講演予定あり）	10	冠婚葬祭のマナーを知る	
1	マナーを知る	冠婚葬祭のマナー これまでのまとめ	8	冠婚葬祭のマナーを知る これまで学んだマナーのまとめ	
2			4		
3					

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	3 学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に着け、考え、実行	
学習内容の概要	基礎的技術をもとに実習・制作を行います。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	造形の基礎	デザインとは、何かを学ぶ	9	デザインがもたらすものを理解する	
5	造形の要素	形態・色・材質感・空間・時間	13	造形の要素を理解する	
6	造形の構成	構成の基本	11	数理的秩序・調和を理解する	
7	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	7	観察から表現する	
8	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	7	観察から表現する	
9	メッセージと表現	記号による意味	11	表現アイデアの手法	
10	身近な生活のデザイン	自分をデザインする	13	自分をデザインする	
11	身近な生活のデザイン	学校をデザインする	8	学校をデザインする	
12	身近な生活のデザイン	学校を情報化する	9	学校を情報化する	
1	知らせるデザイン	広告ポスターを作る	9	作品完成・発表	
2	知らせるデザイン	手紙をデザインする 学級新聞をデザインする	10	手紙をデザインする 作品完成・発表	
3					

教科名	商業	科目名	ビジネス法規	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科 総合選択 ビジネス	履修形態	必修	授業形態	講義
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。		法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を養う。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	実教出版「ビジネス法規」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	法の概要	ビジネスにおける法の役割 法の体系と解釈・適用	6	法の役割、体系、解釈・適用について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。	
5	権利・義務と財産権	権利・義務とその主体 物と物権・債権 知的財産権	8	権利・義務と財産権について、また知的財産権について、法規と関連付けて考察する。	
6	財産権の変動	契約 物の売買	8	企業活動に係る契約全般について、また物の売買について、法的根拠に基づいて考察する。	
7	財産権の変動	物の貸借	6	企業活動に係る契約全般について、また物の賃貸について、法的根拠に基づいて考察する。	
8	財産権の変動	不法行為	2	企業活動に関する不法行為について、法的根拠に基づいて考察する。	
9	財産権の変動	不法行為 時効	8	企業活動に関する不法行為や時効について、法的根拠に基づいて考察する。	
10	企業活動と法規	企業活動の主体 株式会社の特徴と機関 資金調達と金融取引 組織再編と清算・再建	8	企業活動に係る法規について、様々な事例と法規の関連性を見だし考察する。	
11	企業活動と法規 企業責任と法規	競争秩序の確保 法令順守と説明責任	6	法令順守と説明責任、企業統治の意義と重要性について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。	
12	企業責任と法規	労働者の保護 消費者の保護 情報の保護	6	労働三法、消費者の保護に関する法規、企業が扱う情報の保護に関する法規について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。	
1	紛争の解決と予防 税と法規	紛争の解決 紛争の予防 税の種類と法人の納税義務	8	公証制度や民事訴訟制度について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。法人や不動産に対する税の概要について理解する。	
2	税と法規	法人税の申告と納付 消費税の申告と納付	6	税に係る法規について理解し、手続き等について法規と関連付けて考察し理解する。	
3					

教科名	商業科	科目名	簿記Ⅱ	単位数	4
対象学年 学科・コース	3年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義形式
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
個人企業・株式会社において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識と技能を身につける。		取引の記録をもとに、決算書類の作成まで正確に行い、財政状態や経営成績の判断を行うための思考、判断力を身につける。		実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。	
学習内容の概要	個人企業や株式会社において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識・技能を身につけるとともに、企業の財政状態や経営成績を判断するための基礎的な能力を習得する。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テストによって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。				
使用教材	標準検定簿記問題集（とうほう）など				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	簿記とは 各種取引の記帳	手形取引の記帳 電子記録債権 クレジット売掛金 個人企業の純資産の記帳	13	約束手形を用いた取引の処理を習得する 電子記録債権を用いた取引の処理を習得する クレジット売掛金を用いた取引の処理を習得する 個人企業の純資産についての取引の処理を習得する	
5	各種取引の記帳	個人企業の税金の記帳 3伝票制による記帳と集計 手形の書き換え 不渡手形 営業外手形	15	個人企業の税金についての取引の処理を習得する 3伝票制による集計処理法を習得する 手形の書き換え・不渡手形・営業外手形に関する取引の処理を習得する	
6	各種取引の記帳	その他の記帳 本支店間の取引 本支店財務諸表の合併	17	商品券や社会保険料等の取引の処理を習得する 本支店間取引の処理を習得する 本支店財務諸表の合併処理を習得する	
7	各種取引の記帳	株式会社の設立・開業と株式の発行 当期純利益の計上と剰余金の処分。配当 株式会社の税務	14	株式会社における取引の処理を習得する	
8	各種取引の記帳	固定資産の記帳	9	各種の固定資産の勘定科目を用いた処理を習得する	
9	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商2級受検に向けて模擬問題を解く	
10	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商2級受検に向けて模擬問題を解く	
11	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商2級受検に向けて模擬問題を解く	
12	総復習	検定試験受検に向けて	12	検定試験全商2級受検に向けて模擬問題を解く	
1	総復習	検定試験受検に向けて	13	検定試験全商2級受検に向けて模擬問題を解く	
2					
3					

教科名	商業	科目名	OA演習	単位数	3
対象学年 学科・コース	第3学年総合選択 (ビジネス関連選択)	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
社会人として必要なコンピュータの知識と操作を習得する		身に付けたコンピュータの知識や操作を実践できる力を養う		ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習する	
学習内容の概要	文書作成、表計算、プレゼンテーションに必要な技術を身につける				
評価の観点・ 評価方法	規程に従い、定期考査および小テスト等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	情報処理検定試験模擬問題集、30時間でマスターWord & Excel、自主制作プリント等				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Excelによる表計算	・関数の利用 ・グラフの作成 ・ハードウェア・ソフトウェアに関する知識 ・通信ネットワークに関する知識 ・情報モラルとセキュリティに関する知識	7	・基本的な関数である合計、平均、最大、最小の使い方を理解する ・表を読み解き、適切なグラフの挿入ができるようになる ・表計算ソフトの操作だけでなく、コンピュータに関連する知識を身につける	
5		11			
6		13			
7		検定対策	12	6月までの内容をふまえて模擬問題および検定過去問題に取り組み検定合格を目指す	
8			5		
9			13		
10	Wordによる文書作成	タイピング練習およびビジネス文書作成	14	表計算の内容に比べ文字を打つ量、漢字への変換が多くなるため、タイピング練習によりキーボードに慣れさせ、あわせて編集機能について理解する	
11		ビジネス文書作成	14	さまざまなビジネス文書を作成するとともに、発信日付や受信者名といった文書構成について理解させる	
12	PowerPointによる プレゼンテーション資料の作成	基本操作及び図形、 グラフの挿入	9	PowerPointによるスライド作成から基本的な編集、またプレゼンテーションの仕方について理解させる	
1			5		
2			5		
3					

教科名	商業	科目名	ビジネスマナーⅡ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年総合選択 (生活)	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
ビジネスの様々な場面で役立つマナーに関する知識と技能を習得する		身に付けた基礎知識を実践で適切に処理できる能力を身につける		ビジネスを円滑に展開する力を向上し、積極的にコミュニケーションを図る態度を養う	
学習内容の概要	秘書検定2級の内容を通じて働く上で必要な知識、技能等を身につける。実社会に出た上で必要とされるマナーについて詳しく学ぶ。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期テストおよび小テスト等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	自主教材テキスト『ビジネスマナー』				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	秘書検定2級対策	筆記問題対策 文書に関する問題 郵便に関する問題	6	2年次に学習した3級の範囲に加え、新たに出題される語句を説明し、具体例を挙げながら理解させる。	
5	秘書検定2級対策	筆記問題対策 言葉遣いに関する問題 慶弔に関する問題	8		
6	秘書検定2級対策	模擬問題を活用 過去問題を解く グループ学習	8	検定に向けて、過去問題を活用し幅広く復習する。場合によっては少人数のグループを組み、互いに意見を交わしながら主体的に取り組み理解させる。	
7	秘書検定2級総復習	全範囲から厳選した問題に取り組む	6	秘書検定2級の全範囲の中から、特に今後の実社会で重要となる項目を厳選して取り上げ理解させる。	
8	仕事の進め方	来客応対の基本	2	来客を迎える際のモノと心の準備を理解させる。	
9	仕事の進め方	訪問のマナー 席次の基本 会議の基礎知識	8	訪問の仕方からあらゆる場所における席次、会議の種類、エチケットについて理解させる。	
10	仕事の進め方	ビジネス文書 ・文書の基本、書き方 ・社外文書の慣用句	8	前文、本文、末文といった基本を習得し、分かりやすい文書の作成を理解させる。	
11	仕事の進め方	・ビジネスレター ・文書の整理・保管 ・封筒、葉書の書き方	6	更にビジネス文書の基本的なことを理解させる。	
12	仕事の進め方	職場の人間関係 ・良い人間関係を作る ・好かれる人への努力	6	社会人として必要な言葉、行動、態度を理解させる。	
1	知っておきたい業務知識	給与 ・給与、賞与のしくみ 税金（給与に関して）	8	給与所得者となる自覚を促し基本的なことを理解させる。	
2	知っておきたい業務知識	保険 ・各種保険制度	6	社会人として必要な知識である保険制度について理解させる。	
3					

教科名	家庭	科目名	保育実践	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	3年 総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要		子どもの表現活動と保育・子育て支援と保育・保育の活動計画と実習			
評価の観点・ 評価方法		・評価の観点 【知識・技能】表現活動の重要性や子育て支援の意義と役割を捉え、その特徴や課題などについて理解し、子どもの健やかな発達を促すことができるように、保育や子育て支援に必要な知識や技術を習得している。 【思考・判断・表現】子どもの育ちや子育て支援に関して思考を深め、課題を発見するとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造することによって、課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもたちの健やかな発達を保障するため保育の充実が不可欠であることを認識し、豊かな人間性を養い、広い視野をもちながら学ぶことができる。また、保育や子育て支援に必要な知識と技術を進んで習得し、習得した知識や技術を活用するとともに、他者と協働しながら主体的に学び続けることができる。 ・評価方法 規定に従い、観点別評価で行う			
使用教材		保育実践(実教出版)、課題プリント			
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	1章 子どもの表現活動と保育	第1節 子どもの表現活動の面白さ 第2節 造形表現活動	6	・子どもの表現の面白さを楽しみ、子どもが安心して活動できる場所や時間の確保、人間関係を形づくることの重要性について理解する。 ・子どもの造形・描画表現が子どもの創造性を育てる上で重要な活動であることについて理解する。	
5	1章 子どもの表現活動と保育	第3節 言語表現活動	7	・絵本やお話に親しむことが子どもの創造力と思考力を高める活動であることを学び、言葉やイメージが豊かになるような援助の方法について考える。	
6	1章 子どもの表現活動と保育	第4節 音楽・身体表現活動	7	・子どもにとっての音楽・身体表現の重要性や、子どもが音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりする活動を援助する方法について理解する。	
7	1章 子どもの表現活動と保育	第5節 情報手段などを活用した活動 第6節 表現活動の実際	7	・身近な事例を通して、子どもの発達や心身への影響を十分に考慮しながら、情報手段を保育に活用できる力を養う。 ・子どもの歌・手遊び・ダンス・幼児体操などにどのようなものがあるか調べ、実際にを行い、理解を深める。	
8	3章 保育の活動計画と実習	第1節 保育の活動計画	3	・保育の活動計画の重要性について学び、子どもの発達や時期を考慮し、どのようなことを身に付けてほしいかという具体的なねらいや活動内容を設定し、部分的な活動計画の作成に取り組む。	
9	3章 保育の活動計画と実習	第1節 保育の活動計画	8		
10	3章 保育の活動計画と実習	第2節 保育実習	8	・保育実習にむけて、一日の生活の流れの中の活動の一部分を計画立案し、準備を行う。	
11	3章 保育の活動計画と実習	第2節 保育実習	8	・保育現場において、子どもや保育者の援助の様子を観察し、保育者の視点をもった保育実習を行う。 ・保育実習を通して課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	
12	2章 子育て支援と保育	第1節 子ども・子育ての問題	6	・子どもと家族を取り巻く社会や環境の様々な変化や問題について学び、子育て支援の意義と役割について理解する。	
1	2章 子育て支援と保育	第2節 子育て支援のための各種施設	6	・身近な地域の子育て支援関連施設ではどのような支援が行われているのか具体的な内容やその役割について理解する。	
2	2章 子育て支援と保育	第3節 子育て支援の実際	6	・保育施設における保護者支援の方法、地域の子育て支援について具体的な事例を通して理解する。	
3					

教科名	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	3年 総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
高齢期にいたるまでの健康づくりについて考えさせ、具体的な事例を通して理解する。高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて具体的な事例を通して理解する。自立生活支援と介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。		福祉政策に関する課題を発見し、生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		地域の高齢者の生活に関心をもち、高齢者と積極的にかわり、適切な生活支援や介護ができたり、福祉の充実、向上をめざしたりすることのできる能力と実践的な態度を身につける。	
学習内容の概要	健康と生活、高齢者の自立支援、高齢者支援の法律と制度、介護・看護の実習				
評価の観点・ 評価方法	・評価の観点 【知識・技能】健康、高齢化の現状、福祉の法制度、自立生活支援について理解し、実践できる技術を習得している。 【思考・判断・表現】多面的に福祉の現状を捉えて思考を深め、高齢者福祉の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな生活を創造することによって、課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】人々の健康の保持増進と高齢者の生活の自立の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、日常生活を健康的におくるために必要な食生活、運動習慣などについて総合的に捉えて、実現に向けて主体的に計画・行動することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、福祉の推進に他と協働して取り組むことができる。 ・評価方法 規定に従い、観点別評価で行う				
使用教材	生活と福祉(実教出版)、課題プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第1章 健康と生活	第1節 健康に関する諸概念 第2節 ライフステージと健康づくり	10	・健康とはどのようなことかを理解する。 ・人生の各ライフステージで、健康のために考えて生活しなければならない内容を理解する。	
5	第2章 少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第1節 少子高齢化の現状 第2節 家族・地域の変化	12	・日本の少子高齢化が急速に進んでいることの問題点を理解する。 ・家族を構成する人数が少なくなること、必要となってくる地域福祉を理解する。	
6	第2章 少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第3節 高齢者の心身の特徴 第4節 高齢者の病気	12	・加齢による心身の変化とその特徴を理解する。 ・高齢者の病気の特徴ついて理解する。	
7	第2章 少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第5節 高齢者に見られる主な疾患や症状 第6節 高齢者の生活課題と施策	9	・高齢者に慢性的にみられる疾患について理解する。 ・高齢者の経済的課題や事故予防について理解する。	
8	第3章 高齢者の自立支援	第1節 人間の尊厳	3	・ノーマライゼーションの考え方について理解する。	
9	第3章 高齢者の自立支援	第2節 高齢者介護の考え方 第3節 コミュニケーションと介護	12	・介護体制やリハビリテーションについて理解する。 ・視覚障害、聴覚障害、認知症がある人への介護方法を理解する。	
10	第4章 高齢者支援の法律と制度	第1節 社会保障・社会福祉制度のしくみ 第2節 介護保険制度のしくみ	12	・社会保障・社会福祉の制度のしくみについて理解する。 ・介護保険制度のしくみについて理解する。	
11	第4章 高齢者支援の法律と制度	第3節 様々な高齢者支援のしくみ 第4節 地域共生社会	12	・住宅や医療などさまざまな分野の支援制度について理解する。	
12	第5章 介護の実習	介護実習	9	・体位変換、歩行介助、食事介助の方法を理解し、対応する力をつける。	
1	第6章 看護の実習	看護実習	9	・窒息の予防、骨折の処置、脱水や熱中症への対応の方法を理解し、対応する力をつける。	
2	第7章 生活支援	第1節 生活支援の考え方 第2節 レクリエーション	8	・衣食住の生活支援について、さまざまな状況に対応できるようにする。 ・レクリエーションの方法を理解する。	
3					

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	5単位
対象学年 学科・コース	3年 総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要	調理の基本・食生活と健康・栄養素のはたらきと食事計画・フードデザイン実習				
評価の観点・ 評価方法	・評価の観点 【知識・技能】栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。 【思考・判断・表現】多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。 ・評価方法 規定に従い、観点別評価で行う				
使用教材	フードデザイン(実教出版)、課題プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習 (実習施設の使用状況により適宜実施)	2節 ライフステージと栄養	17	・各ライフステージに必要な栄養について理解する。 ・基礎的な行事食の調理について、計画し、作ることができる。	
5	2章 栄養素のはたらきと食事計画 6章 フードデザイン実習	3節 食事摂取基準と食事計画	20	・日本人に必要な栄養素の量と摂取量のめやすを理解し、食事の計画を立てることができる。 ・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
6	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	1節 食品の特徴と性質	20	・穀類、いも類、砂糖、豆類、種実類、野菜類、くだもの類の特徴と調理性質を理解する。 ・郷土料理について、計画し、作ることができる。	
7	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	1節 食品の特徴と性質	17	・きのこ類、海藻類、魚介類、肉類、卵類の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
8	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	1節 食品の特徴と性質	6	・牛乳・乳製品、油脂類の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
9	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	1節 食品の特徴と性質	20	・かんてん・ゼラチン、嗜好食品、調味料、加工食品、特別用途食品の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
10	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	2節 食品の特徴と性質 3節 食品の選択と表示	20	・食品の生産の現状と流通方法について理解する。 ・食品の表示について理解し、適切に食品を選ぶことができるようにする。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
11	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	4節 食品の衛生と安全	20	・食中毒の特徴と症状を理解し、食中毒の予防ができるようにする。 ・食品添加物について理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。	
12	5章 料理様式とテーブルコーディネート 6章 フードデザイン実習	1節 料理様式と献立	17	・日本料理、西洋料理、中国料理の様式を理解する。 ・行事食について、計画し、作ることができる。	
1	5章 料理様式とテーブルコーディネート 6章 フードデザイン実習	2節 テーブルコーディネート	17	・和風、洋風、中国風のテーブルコーディネートについて理解し、コーディネートをすることができる。	
2	7章 食育	1節 食育の意義と推進活動	6	・食育について理解する。 ・授業や日常生活を通して身につけた基礎的な調理技術を確認する。	
3					

教科名	情報	科目名	課題研究	単位数	5
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース 情報関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。		情報産業に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。		情報産業に関する課題を解決する力の向上を目指すして自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え情報産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
評価の観点・ 評価方法	課題提出・小テスト等を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。				
使用教材	学習プリント等				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Linux Cにて ソース作成 コンパイル デバックでの確認 など	プログラミングの 基礎基本操作	35	さまざまな分野で利用されているコンピュータの種類と特性を理解し、ハードウェアの機能と構成について学習する。	
5				・データ表現、論理回路、半加算器や全加算器の機能について学習する。 ・CPUの基本的な仕組みや性能、命令の実行、メモリの種類、キャッシュを利用した高速化手法等について学習する。	
6				・ハードディスクの構造や容量、アクセス時間について理解するとともに、ハードディスク以外の記憶装置についても学習する。 ・各種の入出力インタフェース、組込システムや電子タグ等について学習する。	
7		アルゴリズムの基礎・応用	20	規格を標準化することの必要性や、各標準化団体の役割について学習する。	
8		アルゴリズム C 基本プログラミング	55	・システムソフトウェアとアプリケーションソフトウェアとに分けてソフトウェアの種類と役割を学習する。 ・オペレーティングシステムの役割と特性について学習する。	
9				・各種アプリケーションソフトウェアの種類と機能について学習する。 ・オープンソフトウェアの特徴や種類について学習する。	
10				・情報コンテンツの概念や保護などについて学習する。 ・静止画像、動画、音声など情報コンテンツの作成に用いられるメディアの種類や特徴、ファイル形式等について学習する。	
11				・情報システムの処理形態や利用形態について学習する。 ・コンピュータのシステム構成や性能、障害対策について学習する。 ・社会で情報システムがどのように使用されているか学習する。	
12		作品制作	35	・ネットワークの基礎的な形態やケーブルの種類、LANのアクセス制御、インターネットの接続知識について学習する。 ・プロトコル、OSI参照モデルなどネットワークの接続や接続機器について学習する。	
1				・インターネットの概念、歴史、TCP/IPサービスの種類について学習する。 ・ルーティングの役割や機能について学習する。	
2		作品発表	35	・データベースの基本的な概念や機能について学習する。 ・リレーショナルデータベースの基本事項、E-R図とデータ分析、さらにデータの正規化について学習する。	
3				・データベースの制御機能であるトランザクション処理について学習する。 ・検索エンジンについて学習する。	

教科名	情報	科目名	情報デザイン	単位数	4
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース（情報）	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		情報デザインの手法、構成、活用に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び、コンテンツやユーザインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
学習内容の概要	内容を大別すると次の4つの分野からなる。1）情報デザインの役割と対象、2）情報デザインの要素と構成、3）情報デザインの構築、4）情報デザインの活用について実習を中心に習得する。				
評価の観点・ 評価方法	作品・課題提出を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。				
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン Photoshop & Illustrator」・学習プリント等				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	情報デザインの 役割と対象	・社会における情報デザインの役割 ・情報デザインの対象	52	具体的な事例を取り上げ、社会において情報デザインが果たす役割について理解する。 情報伝達やコミュニケーションの仕組みとそこで使われるコンテンツを理解する。	
5					
6					
7					
8	情報デザインの 要素と構成	・情報デザインにおける表現の要素 ・表現手法と心理に与える影響 ・対象の観察と表現 ・情報伝達やコミュニケーションの演出	36	形態や色彩とその働きについて理解する。 造形や色彩が人間の心理に与える影響と、情報デザインへの応用について理解する。 対象を観察する方法と、その結果を表現する技術について理解する。 レイアウトや配色などを扱うとともに、意味や考えの演出についても理解する。	
9					
10					
11	情報デザインの 構築	・情報の収集と検討 ・コンセプトの立案 ・情報の構造化と表現	32	目的を明確にしてコンセプトを決める方法を理解する。 コンセプトに沿った情報の構造化と表現を理解する。	
12					
1	情報デザインの 活用	・情報産業における情報デザインの役割 ・ビジュアルデザイン ・インタラクティブメディアのデザイン	24	製品やサービスの普及、操作性やセキュリティの確保において情報デザインが果たす役割について理解する。 視覚情報の提供について考慮したデザインを理解する。 双方向性について考慮したデザインを理解する。	
2					
3					

教科名	情報	科目名	コンテンツの制作と発信	単位数	3		
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース（情報）	履修形態	必修	授業形態	講義・実習		
学習の到達目標							
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力			
コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		情報社会におけるコンテンツの制作と発信に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		情報社会で必要とされるコンテンツの創造を目指して自ら学び、コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
学習内容の概要	内容を大別すると次の5つの分野からなる。1）情報社会とコンテンツ、2）静止画のコンテンツ、3）動画のコンテンツ、4）音・音声のコンテンツ、5）コンテンツの発信について実習を中心に習得する。						
評価の観点・ 評価方法	作品提出、定期考査を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。						
使用教材・ソフトウェア	VOCALOID PowerDirector GaregeBand 各種学習プリント他						
年間授業計画							
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標			
4	情報社会とコンテンツ	コンテンツの役割 メディアの種類と特性 コンテンツの保護	21	具体的な事例を取り上げて扱う。 また、コンテンツの制作や保護に必要な理論や方法について理解する。			
5							
6	静止画のコンテンツ	静止画による表現 静止画の編集 静止画のコンテンツ制作	24	素材をコンピュータに取り込んで加工したり、素材そのものをコンピュータで作成したりするために必要な方法について身に付ける。			
7							
8	動画のコンテンツ	動画による表現 挿画の編集 動画のコンテンツ制作	24				
9							
10							
11	音・音声の コンテンツ	音・音声による表現 音・音声の編集 音・音声のコンテンツ制作	21				
12							
1	コンテンツの発信	コンテンツ発信の手法 コンテンツの統合と編集 コンテンツの発信と評価	19	コンテンツを発信するための様々な手法について学ぶ。 複数の種類のコンテンツの統合と編集について学ぶ。 様々な機器や環境における表示の互換性などについて理解する。			
2							
3							

教科名	情報	科目名	情報メディアデザイン	単位数	4
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース アート関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
情報の視覚化及び伝達，交流，共有について理解を深めるとともに，専門的な技能を身に付けるようにする。		表現及び鑑賞に関する創造的な思考力，判断力，表現力等を育成する。		情報メディアデザインの可能性を追求する態度を養う。	
学習内容の概要	内容を大別すると次の4つの分野からなる。1）情報デザインの役割と対象、2）情報デザインの要素と構成、3）情報デザインの構築、4）情報デザインの活用について実習を中心に習得する。				
評価の観点・ 評価方法	作品・課題提出を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。				
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン Photoshop & Illustrator」・学習プリント等				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	情報デザインの 役割と対象	・社会における情報デザインの役割 ・情報デザインの対象	52	具体的な事例を取り上げ，社会において情報デザインが果たす役割について理解する。 情報伝達やコミュニケーションの仕組みとそこで使われるコンテンツを理解する。	
5					
6					
7					
8	情報デザインの 要素と構成	・情報デザインにおける表現の要素 ・表現手法と心理に与える影響 ・対象の観察と表現 ・情報伝達やコミュニケーションの演出	36	形態や色彩とその働きについて理解する。 造形や色彩が人間の心理に与える影響と，情報デザインへの応用について理解する。 対象を観察する方法と，その結果を表現する技術について理解する。 レイアウトや配色などを扱うとともに，意味や考えの演出についても理解する。	
9					
10					
11	情報デザインの 構築	・情報の収集と検討 ・コンセプトの立案 ・情報の構造化と表現	32	目的を明確にしてコンセプトを決める方法を理解する。 コンセプトに沿った情報の構造化と表現を理解する。	
12					
1	情報デザインの 活用	・情報産業における情報デザインの役割 ・ビジュアルデザイン ・インタラクティブメディアのデザイン	24	製品やサービスの普及，操作性やセキュリティの確保において情報デザインが果たす役割について理解する。 視覚情報の提供について考慮したデザインを理解する。 双方向性について考慮したデザインを理解する。	
2					
3					

教科名	美術	科目名	マンガ基礎	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	3 学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に着け、考え、実行	
学習内容の概要	マンガの基礎・知識を実習を通して学びます。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	アイシー「漫画・イラストの描き方入門」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	マンガの基本	マンガの模写 ストーリーの作り方	11	漫画の道具がどのようなものがあるか学ぶ。 どんな漫画を描きたいか（プロット）を考える。	
5	マンガの基本	マンガの模写 ストーリーの作り方	9	漫画を描く工程を実際に体験すること（漫画原稿の模写） で、道具の使い方や描き方を学ぶ。プロットを元に漫画の下書きの下書き（ネーム）を描く。	
6	マンガ・イラストの実習	マンガの模写 マンガの下書き	14	漫画を描く工程の復習をする。1 頁のオリジナル漫画を完成させる。既存の漫画を鉛筆で模写し、コマワリ、セリフ回しについて学ぶ。ネームを直す。	
7	マンガ・イラストの実習	短編漫画の作成 マンガの下書き	9	お題に沿ったオリジナル漫画を 1 頁以上のものを作成し完成させる。投稿作品の下書きを半分、1 頁はペン入れまで終わらせる。	
8	マンガ・イラストの実習	マンガの下書き マンガのペン入れ	6	投稿作品の下書きを完成させる。 ペン入れを始める。	
9	マンガ・イラストの実習	マンガのペン入れ	14	投稿作品の人物ペン入れを終わらせる。	
10	マンガ・イラストの実習	効果や背景	11	投稿作品のベタ（黒塗り）背景を描く。	
11	マンガ・イラストの実習	マンガの完成	9	投稿作品の効果、修正を行う。	
12	マンガ・イラストの実習	短編漫画の作成	9	漫画の投稿を行う。 短編漫画の作成をする。	
1	発表	発表	9	全体の講評をする。	
2	発表	発表	6	自作品の振り返りを行う。	
3					

教科名	美術	科目名	コミックアート	単位数	2
対象学年 学科・コース	3 学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
芸術全般の基礎知識・技能の習得		実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得		知識を身に着け、考え、実行	
学習内容の概要	コミックアートの技術を学びます。 基礎的技術をもとに実習・制作を行います。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 定期考査と小テスト 2. 【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	実教出版「商業技術」・アイシー「ART KIT」マンガ・イラストの描き方				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	コミックアート 実習	実用的なアートを分野別にデザインする	6	ラフスケッチを制作する	
5	色彩の応用	色彩見本の作製 造形学習	9	表現する喜び 色彩の大切さ 見本の作成	
6	コミックアート 実習	制作計画の作成	6	計画案の発表・計画案の見直し	
7	小品の作成	複数の小品作成	6	複数の小品作成により、 完成作品の問題点を探り、改善する	
8	小品見本発表	視覚学習	6	各自、見本発表	
9	作品の見直し	作品の見直し	7	作品の最終決定	
10	作品制作	漫画作品制作 コミックアート選択	9	作品制作	
11	作品制作	コミックアート制作	6	作品制作	
12	作品制作	コミックアート制作	5	作品制作	
1	作品完成・発表 レポート提出	コミックアート完成 レポート提出	5	作品完成 発表（米子市美術館） レポート提出	
2	レポート提出	レポート提出	7	レポート提出	
3					